



卒業まで残り1ヶ月となりました！

4日(木)の立春が過ぎ、暦の上では春を迎えたことになりませんが、まだまだ寒い日が続きます。今年の冬は暖冬と言われていたのですが、何となく疑ってみたいような気温の毎日です。

本校ではインフルエンザは今のところ出ていませんが、A型とB型の流行が同時期になると予想されており、油断のできない状況であります。予防に配慮した生活を送ってほしいと思います。

学校では卒業まで残り1ヶ月となり、3年生にとっては、「卒業まであと何日」と数える時期となってきました。一段と一日の過ぎるのが早く感じるようになりますが、大切な時間を計画的に使い、中学校生活のまとめと進路実現に向けて頑張してほしいと思います。

授業参観・学年懇談会を開催！



4日(木)の午後に、今年度最後の授業参観・学年懇談会を開催しました。大変お忙しい中、たくさんの保護者の皆さんにご出席いただき、誠にありがとうございました。生徒たちの授業の様子を参観いただき、成長を感じられたものと思います。

また保護者の皆様には、今年一年間、学校行事やPTA行事にご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

雪のため、校庭が駐車場として使用できず、たいへんご不便をおかけいたしました。ご協力ありがとうございました。



《二中生の活躍》

田善賞版画展

佳作 西間木華恋(2年)

入選 齊藤 なお(1年)

県書きぞめ展

書きぞめ準大賞 齊藤 なお(1年)

書きぞめ奨励賞 橋本 優希(2年)

土砂災害防止に関する絵画・作文審査(中学校作文の部)

福島県砂防協会会長賞 根本 匠(3年)

小森大樹(1年)

徳姫杯卓球大会 女子団体 3位

市民体育祭フットサル競技

Aチーム 2位

新春書道展の作品です！

新春書道展席書大会での市長賞・市議会賞・入選した作品です。どの作品も、伸び伸びとそして力強く書かれており、素晴らしい作品ばかりです。
(校長室前と理科室前の廊下に掲示してあります。)



《市長賞(齊藤さん)議長賞(佐藤さん)の作品》



《入選した生徒作品》

【県立高校 期選抜結果】

5日(金)の正午から県立高校 期選抜試験合格内定の発表があり、本校の67名が合格内定をいただきました。

内定人数は以下の通りです。

須賀川高校 14名	清陵情報高校 16名
須賀川桐陽高校 22名	長沼高校 1名
岩瀬農業高校 5名	郡山高校 3名
郡山東高校 2名	郡山北工業高校 1名
田村高校 2名	石川高校 1名

正式な合格発表は、3月14日(月)になります。各高等学校からは、内定者に対して課題が与えられており、これから高校入学までの間は学力をつけることが必須となります。自覚をもって残りの中学校生活を送ることに期待しています。

学校評議員会を開催！

4日(木)の午後に学校評議員会を開催しました。お忙しい中、評議員の皆様にご出席いただき、授業参観の後、話し合いをもちました。学校評価の結果や教育活動についての話し合いを行いました。

今年一年間、貴重なご意見をいただくことができ、心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。



新入生保護者説明会を開催します

18日(木)の午後2時から、本校体育館において新入生保護者説明会を開催します。中学校生活(学習・生活)や入学諸準備等についての話が中心になります。

また、講話(少年非行の概況)も予定しています。

お忙しい中とは存じますが、ご出席をお願いいたします。

新聞のコラム欄に次のような掲載がありました。参考にしてください。

結果

利益を追求する企業、そこで働く社員、ともに結果が求められ、それが非常に重要なこととなります。一生懸命働いても結果を伴わなければ、努力や苦勞が水の泡になります。

しかし、結果を出さなくても平気な顔をする人も少なくありません。この結果を出せないでいるとクセになり、この習慣が続くことによって、言い訳をしたり、責任転嫁をしたり、出せないことを正当化しようとします。言い訳によって、結果を出せないクセを直りにくくする悪循環にもなります。

結果を出すにはストレスも生じます。ストレスには脳を活性化させる善玉、意気消沈させる悪玉があります。新しい仕事を任せられたときに「よし頑張るぞ」となるか、「失敗したらどうしよう」となるかです。ストレスの発生源が同じでも、プラス思考で受け止めるか、マイナス思考で受け止めるかで、善にも悪にもなります。優秀な人間ほどストレスに強く、どんな状況であっても物事をプラスの感情でとらえ、心をウキウキさせます。

たとえ逆境に置かれたとしても「しめた！」と思うことで、心は弾み、ストレスをエネルギーに変えて、成功を手に入れるものです。つねに良い結果を出すことに、徹底的にこだわり、クセをつけることが望ましいことです。

こころの窓

人は、何歳になっても学ぶことが多いものです。生徒や学生はもちろんですが、大人になって仕事に就いても、勉強しなければならぬことがたくさん出てきます。学校を卒業しても勉強から解放されるということはありません。周りのものすべてから、素直に学ぼうとする気持ちが大切なことです。

機関誌「P・H・P」からの一編を紹介いたします。

学ぶ心

自分一人の頭で考え、自分一人の知恵で生み出したと思っても、本当はすべてこれ他から教わったものである。

教わらずして、学ばずして、人は何一つ考えられるものではない。幼児は親から、生徒は先生から、後輩は先輩から。そうした今までの数多くの学びの上に立ってこそその自分の考えなのである。自分の知恵なのである。だから、よき考え、よき知恵を生み出す人は、同時にまた必ずよき学びの人であると言える。

学ぶ心さえあれば、万物すべてわが師である。

語らぬ木石、流れる雲、無心の幼児、先輩の厳しい叱責、後輩の純粋な忠言、つまりはこの広い宇宙、この人間の長い歴史、どんなに小さいことにも、どんなに古いことにも、宇宙の摂理、自然の理法がひそかに脈づいているのである。そしてまた、人間の尊い知恵と体験がにじんでいるのである。

これらのすべてに学びたい。どんなことから、どんな人からも、謙虚に素直に学びたい。すべてに学ぶ心があって、はじめて新しい知恵も生まれてくる。よき知恵も生まれてくる。学ぶ心が繁栄へのまず第一歩なのである。